

ほづみーと～meet(会う)・オンライン

開催結果報告

- 1 開催日時 令和7年6月25日（水）
午後7時から8時まで
- 2 開催場所 オンライン
- 3 参加者 9名
- 4 テーマ 「もしも私が市長なら…」



ほづみーと・オンラインの様子

5 主な対話の内容

No.1 太田市の学童保育の発展

【参加者】

幼稚園保育園だけでなく、学童保育についても保育料の無償化を実現し、太田市を学童保育について全国 No.1 にしたらよいと思う。学童保育の課題は、市町村によって差がある。幼稚園、保育園、こども園というのは、どこも力を入れている。学童保育も忘れないでほしい。

【市長】

今の親御さんたちは、働かされている方が多いため、学童保育の存在は重要だと考えている。比較的、学校教育や幼稚園保育園の無償化に目が行きがちだが、今回、学童保育の重要性を改めて認識できた。今度、学童保育の現場に行き、様子を見たいと思う。

No.2 太田市の少子高齢化について

【参加者】

太田市の高齢化が大分進んでいる。子どもも少ない。そのことで、自分が亡くなった時に、太田市にどのような影響が出るのか心配している。子どもの人口を増やすためには、教育の面など補助をしないといけない。また、移住者を呼び込むようなことも政策の一つと思う。

よそからも入ってきてもらい、太田の魅力をアピールするということが大事かなと思う。

【市長】

高齢化は、太田市に限らず日本全国で進んでいる。ただ、太田市には約 1 万 6 千人位の外国人の方がいて、就労する外国人が多いのが現状である。また、子育て世代の負担軽減のための政策を行っているが、将来的に子どもの数が減ってしまうのは現実である。

ただ、やはり子育てをする環境は重要だと思っており、産前産後の支援や、不妊治療の費用負担のことも拡大したい。保育料の無償化は元々政策として掲げているので、そういうことも実現できるように、現在、内部で議論している。

No.3 住んでいる地域の高齢化と公共交通について

【参加者】

今、子どもたちをかなりの割合で親が車に乗せて移動させている。子どもは負担だと感じており、卒業したら自由に動ける都会に出たいと考えてしまう。都会に出ると、電車や地下鉄が発達している。つまりは、公共交通が必要と考える。

郊外からバスや自家用車で駅まで行って、そこから電車で市内まで通うのがよいのではないか。電車だと費用対効果を考えると難しいと思うので、モノレールを幹線道路に走らせたなら、無人化もできるだろうし、費用もあまりかからないと思う。

【市長】

田舎の人がみんな都会に出たがるという話は聞いたことがある。交通インフラの整備や

公共交通の手段が必要ということは、その通りであると思う。

No.4 教育の平等と教育効果の拡大について

【参加者】

太田市では、イマージョン教育から、私立、県立、市立校と進学校がある。さらに、定時制やフレックス高校というものもある。それぞれに良い効果があるが、それが教育の機会として平等になっているか。この20年でICT化や国際課は進んでいるはずなので、私たちより下の世代では、教育効果があって、それが世に反映されていることを確認したい。そして、それが「群馬」や「太田」といった特色を出して反映されていれば、面白いと思う。また、高校生と大人などで交流を持てたら良い。そこから、工業都市ということで、物づくりに発展させて商品化させていくことで、太田の文化が国内外に拡大させたい。

【市長】

それは、太田らしくて良いと思う。ぜひ、参考にさせていただく。

No.5 ①ふるさと納税 ②デジタルデータの2元化の解消 ③デジタル教育

【参加者】

①ふるさと納税を活用して、地元産業の活性化、自動車産業の裾野と中小企業を発展させること。ふるさと納税を増やすため、安い価格帯の商品や観光ルートのパッケージ化などと組み合わせ、アピールする必要があると考える。

また、(名称を)太田のロゴに観光の「H」を入れて「OHTA」に変更してみる。

②デジタルの時代では、2元化されたデータは必ず問題を起す。西暦と和暦を併記しているのは日本だけ。自治体は、早めに手を打つべき。外国人に対してもわかりやすくなる。

③デジタル教育を現場の教員から始め、市民のデジタルリテラシー向上を学校教育から浸透させること。教育現場でのデジタル教育を充実させることが、市民の意識改革のためになると考えられる。規制などでやめさせることよりも、どのようなものであるか教えられることが大切。

【市長】

デジタルなどについて、具体的な内容を聞くことができた。

No.6 ①混雑道路の渋滞緩和政策②太田駅南口の整備③1人暮らし高齢者の調査と対策

【参加者】

①太田市は、車社会で混雑道路がものすごく多い。そういった道路の改善を徐々に改善させれば、インフラも良くなると考えられる。

②太田駅南口に大学を誘致するということなので、せっかくなら観光ができ、遊びができる娯楽スポットがもっと増えて欲しいと考えている。今の状態だと居酒屋など大人向きの場所になっている。空き地なども増えているので、整備できたらと考えている。

③住んでいる地域の高齢化が進んでおり、高齢者の1人暮らし世帯が増えている。そうい

った世帯の調査が上手くいっていないと聞いたことがあるが、調査をすることによって幅広い支援ができるのではないかと考える。

【市長】

渋滞や南一番街の再開発は、どういうふうに行くかも含めて、改めて検討している段階である。大学ができて、どういった町にするのが一番良いかということ、しっかりと話し合っていけたらと思っている。

また、太田市の中心部は高齢化が進んでいるので、まずは実態をよく調べ、どういった手立てを打てるのかが、これから大事である。

No.7 子育て支援について

【参加者】

貧困による家庭の格差や子どもの格差などがある。まずは実態を捉えながらアセスメントして、太田市では何ができるのかを一緒に考えていきたい。子ども1人の一生を支えるために関わる人は、身内を除き5人しかいないと教えられた。その中で、極端な家庭の問題を抱えた方々があり、対応しきれない。

行政と一緒に考えていかなければならない。その寄り添う支援の一方で、このコロナ禍でIT化が始まった。家庭によってWi-Fi環境などの格差が激しい。先生も教材研究などに追われ、大変な現場である。一生懸命真剣に考えている仲間がたくさんいるので、その人たちの言葉をどう拾うかが、太田市の人財活用の1つではないかと思う。

【市長】

とても大事なことなので、参考になる。

No.8 介護度改善に伴う社会保障費の削減を実現できた事業所に対するインセンティブ事業

【参加者】

介護度を改善させた事業者やケアマネージャーなどに、インセンティブ制度を導入したい。介護度が高い方を長く受け持つよりも、介護度を下げたことが報われる仕組みを作っていきたいと考えている。

介護度の改善により、事業所としては売り上げが減ってしまう。そのジレンマというのを解消し、質の高いケアが正当に評価されるという構造を築けると考えている。兵庫県の川西市では実際にインセンティブ制度を導入している。

自立支援に向けたケアプランに伴ったサービスを指定し、利用者の介護度が改善するという仕組みを作れば、持続可能な太田市になるのではないかと。

【市長】

私もずっと同じ考えを持っていた。理学療法士になってから、特に介護や高齢者の関係の今の状況は、理学療法士が入ることで、もっと改善し、プラスになることが大事だと考えている。そのことが上手くいけば、介護職員の人手不足もカバーできるのではないかと考えているので、引き続き研究をしていきたい。

No.9 だれもが住みやすい安全な街に、人に優しく活気ある街

【参加者】

太田市は、工業都市のため、トラックなどの大型車両が通過するので、道路が傷みやすい。そのため、車椅子の方などが通行しやすいように歩道帯が狭いところは広くしたり、自転車や通学することもなどの交通弱者に対しても、誰もが使いやすい道路を作りたい。

信号機のない横断歩道などの前に、ハンプ（道路上に設けられた凸状の部分で、車両の速度を抑制するためのもの）を設置して、安心して登校できるようにしたい。

また、狭い道路については、登下校時の時だけでも車を通さないようにしたい。

路線バスの充実もしたい。バスは誰でも使いやすいため、免許返納した高齢者には、ワンメーターだけでも、補助を出してあげたい。

【市長】

公共交通については、パーソントリップとって、今後流動的なものなどをしっかりと調べて、データをもとに、こういった取り組みが必要なのかということ进行分析していきたいと思っている。